

2012年度
NEC森の人づくり講座（第25期）
実施報告書

平成24年11月9日（金）～11月12日（月）

Aコース オークヴィレッジ／森林たくみ塾

Bコース キープ・フォレスターズスクール

応募状況	Aコース		Bコース		合計
	現役生	OB	現役生	OB	
エントリー数	15	8	20	2	45
参加者数	10	8	10	2	30

主 催： 公益社団法人 日本環境教育フォーラム

協 賛： 日本電気株式会社

プログラム運営： 森林たくみ塾／財団法人キープ協会

目 次

Aコース： オークヴィレッジ／森林たくみ塾(岐阜県高山市清見町)	1
■ 講座のねらい	1
■ スケジュール	2
■ プログラム報告	4
1日目 出会い、再開 ～環を広げる	4
2日目 森と私のつながり	6
3日目 森と暮らしのつながり	7
4日目 次につなげるもの	9
■ Aコース： オークヴィレッジ/森林たくみ塾受講生(25期生)の感想です。	10
Bコース： キープ・フォレスターズスクール(山梨県北杜市高根町清里)	12
■ 講座のねらい	12
■ スケジュール	13
■ プログラム報告	16
<1日目>	16
<2日目>	17
<3日目>	18
<4日目>	19
■ Bコース： キープ・フォレスターズスクール受講生(25期生)の感想です。	20

Aコース： オークヴィレッジ／森林たくみ塾(岐阜県高山市清見町)

■ 講座のねらい

- 環境問題解決のための「具体的行動のひとつ」としての「森の手入れを実践する」中で、自分の内面におきる気持ちの変化を大切にしながら、「実践によってはじめて課題解決へ進みはじめる」ことを実感すること。
- 森との関わりから、ポスト 3.11 の復興と暮らし方を考える。

■ 講座中に伝えたいこと

- ① 知識を蓄えたり考えたりすることだけでなく、課題の解決には具体的な行動に移すことが重要。
- ② 地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定能力への期待感を理解する。
- ③ その能力を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない。
- ④ 一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す。
- ⑤ そのために、「人の環＝人を束ねる仕掛け」ネットワークづくりが大切。
- ⑥ 行動するためには、道具の的確な使用法と安全な作業についての理解が不可欠。
- ⑦ ポスト 3.11 の暮らし方を考える、その基礎は「緑の国から」。

■ そのために大切にしたいこと

- ① 蓄えた知識を「腑に落とす」まで実践する。
- ② 分かったつもりにならず、「五感」を使って物事を感じる。
- ③ 実践を通して「手応え」を感じる。

■ スケジュール

=====
1日目 11月9日(金) 出会い ～知識を入れる器づくり
=====

13:30 受付開始
14:00 開講式
14:40 実技「森づくり・導入編」KYTで危険予知～まずは伐ってみよう
16:30 小講義「日本の森を知る」
18:00 夕食
19:00 グループ討議「なぜ森の手入れが必要なのか」
20:00 グループ討議「なぜ森の手入れが必要なのか」発表
20:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
21:00 「森人大交流会」

=====
2日目 11月10日(土) 森と私のつながり ～体験を五感で感じる
=====

07:00 起床・広間の掃除
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 野外講義
「ミクロの視点、マクロの視点」
10:00 実技「森づくり・実践編 ～前編」
12:00 昼食(お弁当)
13:00 実技「森づくり・実践編 ～後編」
18:00 夕食
19:00 小講義「手を掛けて森を育てる」
20:00 小講義「震災後に再確認する、森と人との付き合い方」
21:30 トークセッション
一日のふり返り「森人ブログの記入」

=====
3日目 11月11日(日) 森と私のつながり ～手を動かして考える
=====

07:00 起床・広間の掃除
07:30 目覚めの体操
08:00 朝食
09:15 実技「木を使うことの大切さ。」
10:00 実技「森のモノづくり」
12:00 昼食
13:00 実技「森のモノづくり・延長戦」
15:00 小講義「森人流、事を起こす・輪を広げる」
16:00 見学「オークヴィレッジに見る木のモノづくり」
18:00 夕食
19:30 skypeで小講義「復興支援としての森づくり」
21:00 一日のふり返り「森人ブログの記入」
21:30 森人大交流会

4日目 11月12日(月) 次につなげるもの ～自分と対話する

07:00 起床・広間の掃除
07:30 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 スライドショー「4日間の活動をふり返って」
09:30 実技「ソロ ～たった一人でふり返り」
12:00 昼食
13:00 全体のふり返り
14:00 閉講式
14:30 プログラム終了

■ プログラム報告

1日目 出会い、再開 ～環を広げる

◆学生たちを待ちわびる



今年の夏の講座から手入れを行なっている森林。今回の学生たちは、この森で何に気づき、何を学び、何を得て、どのような成長を見せてくれるのだろう。準備をしている最中から、スタッフはまだ見ぬ学生たちとの出逢いを待ちわびている。

◆開講式



受け付けを終えて講座にさまざまな期待・不安を感じる中、森林たくみ塾理事長・佃よりあいさつ。

「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そして愉快なことはあくまでゆかいに。」「納得するまで腑に落とす。」これからの4日間でたくさんのことを学ぶためのキーワードです。

◆実技『森づくり・導入編』KYTで危険予知～まずは伐って見よう



ヘルメットにノコギリ・剪定バサミを装備し、いざ森の中へ！

「この夏に先輩たちが手入れした森と、今回皆さんが手入れする森を続けて歩いていきます。森や手入れについての解説は一切しません。先輩たちが手入れしてきた森をよーく観察して、同じになるように手入れしてもらいます。」「足元だけに気を取られず、前方や横、頭の上などの様子もよーく観察してください。」

道具の扱いと安全作業について話をした後、さっそくグループに分かれて森の手入れをしてもらう。それぞれが戸惑いながらも自分の判断で笹を刈ったり木を切ったりし始めました。しばらく作業が進んだ後、「リュックを下ろして作業したらどう？」「何をしているの？」「なぜそうしているの？」「もっとやりやすいやり方はないの？」と畳み掛けるように質問してみる。何の疑問も抱かず猿真似で始めた森の手入れだが、ようやく問題意識を持ちながら作業をするようになってきた。

◆グループ討議『なぜ森の手入れが必要か』



何も教えない森づくりでは、「考えるよりまず行動」「やってみたことから考える」ことを大切にしている。環境や林業に知識のある学生ほど、頭にある知識と目の前にある状況の違いから何をすればいいか悩んでしまったことだろう。

疑問や質問・感想といったものを個人で紙に書き出し、グループで模造紙にマッピングをしていきます。同じ森で作業したのに違う視点、考えもしなかった視点、知らないということが恥ずかしくて書けなかった質問…。人と意見を交わすことから学ぶことがたくさんあるはずです。

◆小講義『日本の森を知る。』



質問に対する答えを与えるのが講座の役割ではありません。日本の森林面積や、林業従事者数、現在の森が持つ課題…。こんな基礎知識を持った上で森を見ると、もっと広い視野で森を捉えることができます。講座を聞けば聞くほど、「なぜ？なぜ？」もっと知りたいという欲求が生まれてきます。

◆森人大交流会



この講座で大切にしているのが、夜の交流時間。初日は持ち時間5分の自己紹介から始まります。今回もパワーポイントを駆使したプレゼンが目立ちましたが、アナログ派も工夫を凝らした紹介をしてくれました。20人もの自己紹介は、延々4時間ほど続きましたが、本当の意味でお互いを知るのはこれから。ここで距離を縮めて仲良くなったら、話し合いは朝まで続きます。

2日目 森と私のつながり

◆野外講義「ミクロの視点・マクロの視点」



今日は一日森の中。目の前の作業に集中せず、一歩も二歩も引いたところから見る目を持ってください。

◆実技「森づくり・実践編」



今日は一日森の手入れです。グループごとに打ち合わせを終え、さっそく今日の作業に入りました。昨日とは打って変わって、迷いのない表情でどんどんササを切り進めていきます。土を掘って根っこを観察したり、ロープを使って木を倒したり活動の幅も広がっています。みんなが協力して一丸となると、見違えるほどのスピードで手入れが進んでいきます。

ツルにぶらさがったり、寝転がったり、木によじ登ったり、自然と一体になっている様子も…。昨日とは明らかに表情が違い、みんな開放された様子。全身を使っての作業だが、途中で暖かいお汁粉を食べ元気回復。森で学び、森に学ぶ2日目。知識でなく、経験から学んだ多くのことを通して、参加者たちはどう成長したのだろうか。

◆小講座『手を掛けて森を育てる』



浮世絵に描かれるハゲ山に松林、赤土の露出した山が示すものは？ 歩く植物図鑑・ジリさんが、日本の歴史・世界の歴史から森を読み解く。

自動車産業4万人、林業10万人の就労人口と言われるドイツ。日本より狭い森林で、日本以上の木材を産出している。林業がカッコイイ、そんな林業を目指したい。

◆小講義「震災後に再認識する、森と人との付き合い方」



サンカと呼ばれる山の民たちの暮らしは、森の恵みに依存して森とともに生きる暮らしそのもの。そんな彼らの森の恵みの活用法を辿って見ると、これからの私たちの暮らしを構築する上で参考になる視点を多く得ることができる

3日目 森と暮らしのつながり

◆実技「木を使うことの大切さ」



森の中に立っている樹。それが切り倒されて素材としての木になり、暮らしの道具となって生き続ける。そのプロセスを自分が体験しているという満足感。五感を総動員して、木を使うことの大切さを感じている学生たち。

◆実技「森のモノづくり」



カンナで削ると、つるつるとした手触りに変わってくる材料の表面。うずたかく積み上げられるカンナくず。部屋中に立ち込める木の匂い。つつい無言のまま、お昼になったのも忘れて削ることに熱中してしまいます。大量に発生したカンナくずをディスプレイの演出に、あるいは不織布の袋に入れて匂い袋に。森林資源のカスケード利用という言葉は難しくても、もったいないから捨てないで利用する、と考えるとわかりやすいですね。

◆小講義「森人流、事を起こす・輪を広げる」

この講座で得たものを、行動にうつすために必要なこと。それは素人の力とプロの力。それを生かすすべてを学びます。

◆見学『オークヴィレッジに見る木のモノづくり』



木という再生産可能な素材の魅力を余すところなく惹き出して、長く使えるものを作る技とは。オークヴィレッジのモノづくりの理念を通して、暮らしの中に木を活かすことの意味合いを見いだします。

◆skype で小講義「復興支援としての森づくり」

両コースの学生を対象に、skype を通じて NPO ドングリの会「緑の国プロジェクト」について解説。東北の森で拾ったトチの実を育てて東北の森に帰すプロジェクトに、学生の皆さんにも参加してもらいます。是非皆さんと、東北の植樹祭でお会いしたいものです。

◆森人大交流会



環境問題のみならず、大学での勉強・サークルでの活動・恋愛・進路…。毎晩、遅くまでみんなで語ってきました。大学の友だちとも、そこまで深く話をしたことがない、と言われるほどです。一生の友は、こうした場で醸し出されるのかもしれませんが。みんなで過ごす最後の夜です。今夜は朝まで語り明かす勢いのようなようです。

4日目 次につなげるもの

◆スライドショー『4日間をふり返って』

駆け足で過ぎ去ったあつという間の3日間を、たくさんの映像とナレーションでたっぷりふり返りました。

◆実技『ソロ～たった一人でふり返り』



仲間と共に行動し、仲間とともに語り明かした昨日までの時間。最終日の今日は、自分と過ごす時間です。講座での学び・人との出会い・これからの目標……。お昼までの時間たっぷり使って、一人の時間を過ごします。

◆全体のふり返り

午前中の「ソロ」を受けて、この講座を通してみんなが得たものをお互いに共有する時間です。

「教科書で学ぶことが勉強だと思っていた。何も知らないで始めた森の手入れで、たくさんの考えが自分の中から出てきたことにビックリ！これが本当の学びと、腑に落ちた。」「議論しあうことのできる仲間が、ここにいる。」「環境教育とは、人を変える前に、自分が変わることと知った。」「自分と向き合うことができた。」「この森を通して、自分を変えることができた。」「人見知り、話しべた。そんな人でもみんなが受け入れてくれる。たった4日間で、表情が変わった。」

一人ひとりの言葉から、この4日間の成長ぶりが伺えました。

◆閉講式

「いろんな学部に「環境」がついている。うらやましい限りだが、一方で「環境教育」という既成概念ができてつあるから、その枠にとられるな。」「3泊4日の講座も終了！でもこれで終わりではありません。しているから、しているへ。これからの活躍に期待しています。」



■ Aコース：オークヴィレッジ/森林たくみ塾受講生（25期生）の感想です。

※文章の一部を抜粋、加筆をしています。

「この講座を通して獲得したものは、何ですか？」

KN(広島文教女子大学)

たくさん考え、しっかりと準備を行い「やってみる」ことは大切である。しかし、何もよくわからないままに、とにかく「やってみる」ことも大切であり、自分の学びへとつながっていくのだということを、今回の体験を通して強く感じた。まずはやってみることで、自分たちの行動に疑問を持ち、課題を見つけることが出来た。その課題に対して、考えたことを試しにやってみることで、少しずつ自分なりの答えを見つけることができるのだと実感した。日常生活に戻った時にも、とにかくやってみる「うけたもう」の考えを大切に、実行していきたい。この場で学んだことを、たくさんの人たちに伝え、広めていきたいと思う。

SI(徳島文理大学)

この講座で獲得したものは出逢いであったり体験の事実であったりたくさんあるのだが、私の心に一番大きく残っているのは、この講座自体の進め方だ。講座のコンセプトに則った進行であったりスタッフの参加者への関わり方にとっても感動した。とにかく徹底しているなと感じた。言葉遣いひとつとってもすぐに得られるのではない。長年にわたって続けてきた上での安定感と良い意味での力の抜けを感じる事が出来た。「まずやってみる」「腑に落ちるまでやってみる」「答えを提示することはない」「むずかしいことをやさしく」。森のことだけでなく、何にでも通じる言葉たちを頂いた。それを身体で示してくれたスタッフの方々と、何の矛盾も感じさせない講座の進みに脱帽です。そのような面でもプラスアルファの大き過ぎる収穫だった。これからも是非続いて欲しいと願う。

KM(新潟県立大学)

今回の講座で、私は脳みその中に自分の心を入れられた気がする。いきなり鋸とハサミを渡され自由に山の中で動いてくださいと言われる。周りは皆動き始めるが、私は動けないという状況は正直辛かった。そして知っているとは分かっているということは違うということに気づいた。知っているというのは他人の言葉であり、記憶してそのままの形で頭の中に入れておけばよい。話すときも他人の言葉を使える。一方で分かっているということは知識を頭に入れた上でそれを自分の体験と重ねあわせ自分の言葉で考えるという作業が必要となる。今回の講座で私はすべてを分かることはできなかつたし、今でも他人の言葉を使っている気がする。しかし自分の言葉で話せそうなものも見えてきたので、考える力を得ることが出来た気がする。

KT(奈良教育大学大学院)

自然とこれからも関わって行きたい。私はその可能性を探るため、この講座に参加した。森林を取り巻く様々な問題を学んだが、私が森林を守りたいと思った理由は2つに落ち着く。まず1つ目は「子どもを成長させるため」である。森林の中では考える力や五感を働かせる感覚など、継続的に関わることで子どもに生きる力を育ませられる。2つ目は「自分が落ち着くから」である。「地球温暖化を防ぐため」とはスケールが違いすぎるが、自分は自分なりの付き合い方をして行こうと思った。最後に、力がないと何も動かせない。森を守るため、感じて学び、力を付けたい。自分が獲得したものは、なけなしの知識と関わり続けたいという根本的で大切な想いだ。

YK(人間環境大学)

私はこの講座に参加する前に、この講座のホームページで「知識よりも行動すること」という当講座のテーマを知りました。私は予め教科書等で勉強してから行動した方が実になるのでは？と疑問に思いました。講座初日、「先輩達が手入れした森を参考にして手入れしてください」との指示だけを受け私たちは森の手入れを始めました。正直なところ何もわからない状態でした。「この木は切って良いのか?」、「笹ばかり生えているな」、「自分は何の為に森を手入れしているのか?」気が付くと私の中で「疑問」や「気づき」がどんどん溢れていました。具体的に行動してみた結果、発見や考えが想像以上に浮かび驚きました。さらに、「どのような剪定が必要なのか?」など森の手入れについてもっと知りたくなりました。疑問が興味関心へとつながり、「まずはやってみること」の大切さを、身を持って学ぶことが出来ました。また、今回の講座では様々な「人と人とのつながり」がありました。メンバー同士のつながり、スタッフとのつながり、1人では決して知ることのできない考えや想いをお互いの語り合いの中で共有できたことは人生の財産になったと思います。私はこれからも人と人とのつながりを大切に、私自身がその「環」を拡げる一因になりたいと思います。

KO(法政大学)

私はもっと自分をさらけ出すことによって、周りから理解されるようになりたいと思いました。森人の仲間たちと過ごしたこの4日間は、私にとって大きな財産になりました。お互いがお互いを知ることができ、仲を深めていくつながりの形成は、今後の人生においても重要なことなので、理解を深めることができました。この4日間の経験を活かせるように、受身として待つのではなく、自分でより動いて失敗を多くして成長する過程に繋がりたいです。

MS(国際自然環境アウトドア専門学校)

本当に来てよかった。そう思うわけは2つある。その1つ目は、「同じ思いを持つ同士、環境教育とは別の分野の仲間に出会えたこと」だ。全く違う分野の人に思えるが、実は同じ物を持っていると知れたことは本当に大きなものを得た。美術と環境教育、都会と田舎、今回の講座で知った森と海、全ては繋がっていると分かった。もう1つは「知ることは次の行動になる」ということだ。今回の講座で、まずやって見ることの重要性を学んだが、逆に知識をつけることの重要性を痛感することができた。知りたいという感情が爆発した。そして知って行動して、知って行動して・・・更なる爆発を起こしたいと思う。

HI(東京学芸大学)

講座に参加する前までは、森を守るというと木を伐らないで保護するイメージだった。人間が少し森の手入れをするだけで森の雰囲気は明るくなる。そして伐った木は利用すれば森が循環される。気を張り過ぎないで森とともに生きるという意識で行きたい。人と人、人と地域、人と自然など、自分の身近な生活から色々なつながりを見出すことが必要だということ。人を変える前に自分を変えること。自分のあり方を問い続けること。など、多くのことを学ぶことが出来た。4日間という短い講座の中で得た多くのことを自分の中で整理できたので、これらを自分の周囲の人から多くの人へ発信して行きたい。人に伝えることで、今回得たたくさんの物を忘れずに、つながりを大切にしたい。

MK(日本文理大学)

今回の講座では、学ぶことと同じくらいに感じる大切さを実感した。初めて出会う人と初めて体験することは私にとって、頭の中以上に五感が力強く活動していると感じられる瞬間だった。目で見ると、口に出す、一歩下がってみる。なんでも難しく考えずに、難しいことを優しく愉快地にということはこの講座の最初に学んだことであり最も大きな収穫になった。

Bコース： キープ・フォレスターズスクール(山梨県北杜市高根町清里)



■ 講座のねらい

「つなぐ～インタープリテーションから学ぶ」

環境教育に求められている役割は、異なるものを“つなぐ”こと。

人と自然、人と人をつなぐ「インタープリテーション」について学びながら、

「自然との」「他者との」「自分との」より良いコミュニケーションのあり方を考えます。

- ① 環境教育について学ぶ(企業や NPO における環境教育の取り組みについて知る)
- ② インタープリテーションの考え方や手法について学ぶ
- ③ 自分自身と環境教育との関わりについて考える(自分なりの言葉で説明できるようになる)
- ④ 全国の仲間とのネットワークを作る
- ⑤ 自分自身のねらいを達成する

■ そのために大切にしたいこと

- ① 体験から学ぶこと
- ② お互いから学ぶこと
- ③ 楽しみながら学ぶこと

■ スケジュール

1日目 11月9日(金)

- 13:00 開講式
- 13:20 野外に出る準備
- 13:30 お互いを知り合う時間／アイスブレイキング
「ラインナップ(名前順、誕生日順)」「ストッキングボール」など
- 14:10 環境教育施設の見学①ハヶ岳自然ふれあいセンター
- 14:40 休憩
- 14:45 インタープリテーションの体験①ヤマネをテーマにしたガイドウォーク
「ヤマネが天敵に襲われたら?」「スキヤキハイク(ヤマネの視点で森を歩く)」「ヤマネの冬眠場所はどこ?(ヤマネのぬいぐるみ探し)」「アニマルパスウェイ見学」など
- 15:45 環境教育施設の見学②やまねミュージアム
- 16:15 休憩・チェックイン
- 16:45 目的の共有化・自己紹介
- ・自己紹介シートの作成
 - ①今の気持ち ②プロフィールなど ③一番好きな風景
 - ・記入後に、小グループで①②③を話題に自己紹介
 - ・スケジュール&プログラムのねらい説明
 - ・自己紹介シートの作成(続き) ④自分のねらい
 - ・④について、全員で紹介しあう
 - ・自己紹介シートを壁に掲示
- 18:00 夕食
- 19:15 講義:環境教育概論
「環境問題解決の3つの方法」「環境教育の“環境”とは?」「なぜ“関係”の問題なのか?」「持続可能な社会とは?」「最も恐れるべきこと」「環境教育の反作用」
- 20:15 1日を整理する時間
- 20:30 終了(以降、自由交流会)
-

2日目 11月10日(土)

- 08:00 朝食
- 09:00 インタープリテーションの体験②参加者主体型
「カモフラージュ」「私の葉っぱはどれでしょう?」「葉っぱのラインナップ」「葉っぱのスライドショー」「一本の枝物語」「一本の樹をめぐる詩」「ソロ〜一筆入魂」
- 11:20 休憩(森のお茶屋)
- 11:40 講義:インタープリテーション概論

「インタープリテーションとは?」「インタープリテーションの目的」「インタープリテーションが伝えること」
「インタープリテーションの定義(Not instruction but provocation)」

12:10 昼食

13:25 実習:プログラム作り/オリエンテーション

補講:「インタープリテーションの6つの型」「プログラムのプランニング(計画)」
与件の提示、グループ分け

14:00 休憩

14:05 実習:プログラム作り/グループ作り

- ①メンバーの今の気持ち、期待(思い)、経験、挑戦したいこと、を共有
- ②グループとして大切にしたいこと(プログラムで、メンバーの関係作りで)
- ③グループ名を決める

14:30 野外に出る準備

14:35 実習:プログラム作り/素材探し

15:05 実習:プログラム作り/準備

17:20 発表順決め、補講:「インタープリターがつくるもの(時間・空間・関係)」

17:30 実習:プログラム作り/準備(続き)

18:00 夕食

19:20 インタープリテーションの体験③ナイトハイク(矢合)

20:05 1日を整理する時間

20:20 終了

20:45 オプション①:OB生の自己紹介プレゼン

21:15 オプション②:インタープリターの部屋(スタッフへの質問コーナー)

3日目 11月11日(日)

08:00 朝食

09:00 実習:プログラム作り/リハーサル

10:10 実習:プログラム作り/実施&相互評価

- 1)team☆758(うっちー、ぴい、ちえるしー)「葉っぱじゃんけん」
- 2)全カメガネ(がんぼん、ぽったー、あのちゃん)「木の名付け親ゲーム」
- 3)ジャージー牛とゆかいな仲間たち(あっこ、ちい・さっぼ)「土で絵を描いてみよう！」
- 4)ぼげず(ぼす、ずっちゃん、げやま)「森の色はどんな色？」

12:30 昼食

13:45 実習:プログラム作り/ふりかえりとわかちあい①

・フィードバック用紙の読み合せ、プログラムシートの改善

14:20 休憩

14:25 実習:プログラム作り/ふりかえりとわかちあい②

・インタープリターに必要な視点とは?(各グループで3つにまとめて発表)

- 15:05 休憩
- 15:10 実習:プログラム作り／ふりかえりとわかちあい③
・プロセスのふりかえり
- 15:45 休憩
- 17:15 補いの講義、質疑応答、CONEリーダー登録について
「コミュニケーションで伝わるもの」「より良いコミュニケーションとは?」「インタープリターがつくるもの」
「改めてインタープリテーションとは?」「学びから行動へ」
- 18:00 夕食
- 19:15 Aコースとの交流(スカイプ)
「緑の国プロジェクト」について(小木曾賢一さん／森林たくみ塾)
- 20:15 1日を整理する時間
- 20:30 終了(以降、自由交流会)
-

4日目 11月12日(月)

- 08:00 朝食、チェックアウト
- 09:30 講座のふりかえりとわかちあい
- 10:50 休憩
- 11:00 「NECのCSR経営と戦略的社会貢献活動」(池田俊一さん／NEC CSR・環境推進本部 CSR・社会貢献室)
- 12:00 昼食
- 12:50 閉講式
- 13:40 終了、解散

■ プログラム報告

<1日目>



お互いを知り合う時間／アイスブレイキング

25期生10名にOB生2名、全国から12名が集まり幕を開けたBコース。開講式では緊張の面持ちだったが、関心が近いもの同士、すぐに打ち解けあうことができた。野外でのアイスブレイキング(ゲームなどで緊張をほぐす活動)では、お互いの関係も、そして清里の自然とも、ぐっと距離が近づいたように感じた。



環境教育施設の見学①八ヶ岳自然ふれあいセンター

アイスブレイキングの後、キープ協会が管理・運営する環境教育施設の一つ、「山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」を見学。センターでは、「森の入口」をコンセプトに、体験型の展示を通して、清里の自然情報を提供したり、自然の楽しみ方を提案している。実際に展示に手を触れながら、清里の自然について学び、いよいよ森の中へ。



インタープリテーションの体験①ガイドウォーク

環境教育施設の見学②やまねミュージアム

センターを飛び出すと、目の前に広がる森。この森には、天然記念物のヤマネが生息している。森の中を歩きながら、ヤマネの不思議な生態や、ヤマネにとって森という環境が欠かせないことを知る。また、NPOと企業が協働している取組みとして、ヤマネをはじめとした樹上性動物のための通り道「アニマルパスウェイ」を紹介。車道の上に架かる小さな歩道橋「アニマルパスウェイ」を見上げながら、野生動物と人間との関わり方を考えた。



目的の共有化・自己紹介

講義：環境教育概論

キャンプ場に戻り、自己紹介シートを作成。この講座における自分自身の目的を改めて言葉にし、全員の前で発表した。夕食後の講義では、キープ協会が取り組む自然体験を主とした環境教育の目的について、キーワードを掲げながら整理した。

<2日目>



インタープリテーションの体験②参加者主体型

2日目も朝から天気恵まれた。スタッフの案内の下、たっぷりと清里の自然に触れる時間。葉っぱの形を比べたり、一本の木の特徴を詩に表したり、様々な活動を通して、葉っぱから枝、枝から木、木から森へ、と視点が変わっていく。同時に、参加者同士の関係も深まっていく。最後は、森の中で静かに寝転がってみた。梢を揺らす風、落ち葉の匂い、鳥のさえずり、五感全てで森から発せられるものを感じることができた。



講義：インタープリテーション概論

インタープリテーションは、直訳すると「通訳・翻訳」。自然界のメッセージを言葉に訳す、つまり、見えないもの（語らないもの）を伝えること。見えるものを通して、見えないものを伝えるには？いよいよ自分たちでプログラムを作り上げる実習の時間だ。



実習：プログラム作り／オリエンテーション～グループ作り～素材探し

3人×4グループに分かれて、いよいよ実習の開始。20分のプログラムを、まったくゼロから作り上げていく。まずはグループの中で、グループとしての目標を設定。メンバー同士でそれぞれの気持ちを語り合い、グループとしての意識を高めていく。次に野外に出て、インタープリテーションの素材探し。一人で自然と向き合いながら、自分自身が、「面白いな」「不思議だな」「気持ちいいな」と思うこと（＝伝えたいと思う素材）を、自由に書き出していき。伝えたいと思う素材をグループで持ち寄って、今回扱う素材を絞り、そして、伝えたいこと（＝ねらい）を設定する。暗くなるまで、各グループとも真剣な議論が続く。



<3日目>

プログラム作り／実施&相互評価～ふりかえりとわかちあい

ついに自分自身がインタープリターになる時間がやってきた。直前まで時間をかけて準備をしたプログラム。本番では、お互いに楽しく発表しあうことができた。



発表後、お互いに感想や改善点をメモ用紙に書き出す。このメモを読みながら各グループで評価会を行う。次回再び実施するとしたらどのような改善が必要かを話し合った。その後、「インタープリターに必要な視点は？」という問いに対して、各グループでキーワードを書き出し、発表した。

最後に、前日からの一連の実習で、各グループの中で起きていたこと(グループプロセス)をふりかえった。自分自身がグループにどのように関わっていたかを思い出すとともに、より良いコミュニケーションとは？そのために必要なことは？ということ考えた。



Aコースとの交流

インターネットを使ったAコースとの交流。OB生は、他コースのスタッフとのスクリーン越しの久々の再会を喜ぶ。今回は、Aコース(オークヴィレッジ／森林たくみ塾)の小木曾さんから、東北の樹木の種子を育てて、育てた苗木を、東北に植樹するという「緑の国プロジェクト」について説明をしていただいた。失った緑を取り戻すには長い年月がかかるが、そのためには息の長い復興支援が必要なことを知った。

<4日目>



講座のふりかえりとわかちあい～閉講式

最終日は、これまでの時間で得たことをふりかえり、整理する時間。そして、これからやってみたいと思うことを、メンバー同士で語り合った。NEC社員やキープ協会スタッフなど環境に関わる社会人との交流、そして、同じ志を持つ仲間との出会いは、大きな財産になったはず。ここで得たことが、未来の礎になることを願いつつ、4日間の充実した時間は幕を閉じた。

■ Bコース： キープ・フォレスターズスクール受講生（25期生）の感想です。

※文章の一部を抜粋、加筆をしています。

「この講座を通して獲得したものは、何ですか？」

SA(琉球大学)

環境教育とはいったい何なのか正直、この講座に参加するまでわかりませんでした。『環境』と『教育』という言葉がくっついているので、環境の大切さを子供達に訴える人のようなイメージでした。インタープリターとして僕が重要だと思ったのが気持ちを大切にすることです。気持ち大切にするはその人の感受性、個性を大切にすることだと思います。

これから僕はワークキャンプを企画する際に参加者が地域の人との出会いや実際に地域で働いてみて感じたこと、自然から感じた事を大切に、その人の気持ちを育ててゆけるような企画作りをして行きたいと思います。

AO(早稲田大学)

環境教育に興味を持ちだしたのは、つい数か月前のことです。日本人の文化や思想を作り上げた豊かな自然を守っていききたい、伝えていききたい。そう思い、この講座に参加希望しました。今まで出会ったことのないような人ばかりで、良い意味でのカルチャーショックでした。

人と人、人と自然との関係をつなぐ力を引き出す。言葉を引き出す。気づきや発見を促す。プログラムを作っていく中で、“引き出す”難しさを体験しました。

日本の文化や思想の特徴は、異質なものも受け入れる寛容性、柔軟性、そして融合性に優れているところです。人と自然。人と人。自分とは違うものであっても、相手を理解し、つながっていく。たとえ、自分と違う価値観が持っていても、それを全否定せず、受け入れる。そういう心は、自然と人との関係、人と人との関係をつなぐ環境教育にもつながっていると感じました。

SK(広島市立大学)

私がこの講座で学んだ一番大きなことは、なにかを伝えるため、気づいてもらうためには、どのような手段をとるかだけでなく、そのなかでどのようなコミュニケーションをとるかが重要であるということです。対象者の求めているものや興味・関心を理解し、それらを尊重しながらかかわっていくことが、対象者自身も知らなかった新しい感性や発想を引き出すことにつながるのだと知りました。対象者とのコミュニケーションだけでなく、対自然、対自分、またスタッフどうしのコミュニケーションも、インタープリテーションの影響力を左右する要素であると感じました。私はそれまで「環境教育＝自然と触れ合って環境について学ぶこと」としか考えていなかったのに、そこに「コミュニケーション」という新しい要素が加わったことに驚きました。

コミュニケーションがインタープリテーションを構成する重要な要素のひとつであるならば、コミュニケーションを大切にすることで、環境教育を日常に落とし込むことができるのではないかと、今は感じています。つまり、特別に時間をとってインタープリテーションを企画することが難しくても、普段のコミュニケーションの中で、相手に自然や環境について気づきを促すことは出来るのではないかと、それが既にインタープリテーションなのではないかと思っています。

KT(東京大学大学院)

小さな頃は自然学校に通っていましたが大学に入ってからそのような機会は少なく、本講座で久々にキープ

協会の方の様々なアクティビティを体験する側になり、やはり自然のチカラはすごいと実感しました。短期間の中で自然や環境教育に関して腑に落ちる経験が多くあり、また仲間とのつながりが日増しに太くなっていくのを感じました。

これらは清里の自然が私たち参加者の感性を解放してくれたおかげであり、そのキッカケにあったのが、講師の皆さんの場づくりだと思います。それと悟られないようなところでもインタープリテーションの雰囲気作りは始まっていて、指導するような形でなく、参加者自身が気づくような橋渡しをする役割が大切なのだと感じました。

KM(早稲田大学)

今回の講座の体験で私が学んだことは大きく2つある。一つは身の回りにあるものに対する相手の考えや感じていることを引き出し、それを受け止めるコミュニケーションのあり方である。もう一つは、自分自身を客観的にとらえること、相手のことを尊重することの大切さである。

実際にプログラムの実施者となってみて思ったことは自分を客観視することの必要性である。参加者に見られている自分はどんな姿か、どんな仕草や表情、言葉がふさわしいのかを考えながら、刻々と変化する自然にもアンテナを張って、参加者とともに自然とのコミュニケーションを図ることが、「工夫」の前提となることを実感した。そして、参加者だけではなくプログラムと一緒に実施する仲間の考えを尊重し、それが周りにも伝わっていることも前提となると感じた。

KK(東京農業大学)

「環境教育」という言葉は、今ではいろんなところに出てくる言葉です。私には『環境教育＝環境を教える』といった印象がありとても違和感を感じていました。自分が沢登りを子供たちと一緒にしていた時に感じた森の中の体験を「今、自分は環境を教えているんだ」とは全く感じなかったのです。しかし、今回の講座の中で『教育＝ひきだす』ということを知りました。自然の中で体験者の発見や気づきをひきだすことが環境教育ということなんだと自分自身がインタープリテーションの体験を通じて感じました。

私は、自分を自然に目を向かせてくれた人達のように、周りの人にも自然に目を向けるきっかけを作りたいと講座を通じて思いました。「自分たちの周りをじっくり見てみよう、耳を澄ましてみよう、触ってみよう、鼻を近づけてみよう」「実は自然っておもしろいんだ！」と気づいてもらえるようなきっかけづくりをし、「それぞれの発見や気づきをひきだす環境教育」に関わっていきたいです。

KU(南山大学)

インタープリテーションでは参加者の体験によって参加者自身が気づき、感じる事が大切ですが、まさにそれを体験出来たと思います。

インタープリテーションとはコミュニケーションの手段だと学んだので、自然学校にボランティアとして参加することを継続し、それを活かしたいです。これからも何らかの形で環境教育に関わっていきたいと思います。

JI(OB)

今回講座に参加し、徐々に五感をフル活用して自然を感じ続けることで、1日半と短い間でしたが心も体もびっくりするぐらいデトックスされました。自然体でいることの大切さを改めて感じ、プチインタープリターとして、これから自分がインタープリテーションする側になっていきたいと改めて感じました。

今後、「インタープリテーション」×「？」の？という引き出しを増やし、様々な場面でインタープリテーションの要素を活用していきたいです。